

二葉

東京支部だより

人生到る処青山有り

東京支部長 中坪清子



る後輩と沢山知り合えたことは大きな財産です。こんな風に年を重ねたいという目標にもなりました。先輩、同期、後輩と協力して運営することに連帯感が湧き、多くのことを学びました。まず同期会を開くことから始め

東京支部会員の皆様には、まずご健勝のことと存じ上げます。平成二十一年定期総会には、学年幹事をはじめ、多くの皆様が出席下さり、有意義な会を開催できました。紙面を借りて、心より感謝申し上げます。



古厩文宣校長

ましよう。同期生の連絡先は支部長にお問い合わせ下さい。同期会を開く過程で消息の判った方がいらしたら、ご面倒でも支部長へご連絡下さい。同期会にはいろんな方法や工夫があります。開催場所を東京―千葉―埼玉―神奈川と変えていくと新しい発見があったり、穴場を見つけることもあります。楽しかった思いが次に繋がります。同期生の連絡役が幹事です。幹事会は支部活動を支える場です。また数多くの同窓生の皆さんに出会える機会です。総会が近づいて参りました。一人でも多くの皆様のご出席を役員一同心よりお待ちしております。

平成21年度 東京支部 役員



- 会計 杉浦 澄尾 (18回)
- 副支部長 若林さき子 (19回)
- 市川みどり (18回)
- 支部長 中坪清子 (18回)
- 記録 鈴木 泉 (27回)
- 副支部長 大高よし美 (18回)
- 記録 斉藤 由織 (27回)
- 副支部長 稲村ほなみ (19回)
- 記録 伊藤みすず (27回)
- 会計監査 竹村さえ子 (17回)
- 小松 桂子 (17回)

本部定期総会のお知らせ

日 時 平成22年 4月17日 (土) 9:30~
 会 場 RAKO華乃井ホテル (諏訪市湖畔)
 ☎ 0266-54-0555
 講演講師 宮崎 玲子氏 (高女39回)
 演題 「世界の台所から」
 会 費 5000円
 申 込 本部事務局 ☎0266-52-9595



平成22年 東京支部総会のお知らせ

日 時 平成22年 5月25日 (火) 10:30~15:30
 会 場 日本青年館 (新宿区)
 4F ホテル宴会場「アルデ」(元東洋軒)
 ☎ 03-3475-2525
 講演講師 片野 満氏
 映画と講演「諏訪のおんばしら」
 会 費 5000円 (昼食パーティー)

平成二十一年
総会報告

二十一年度副支部長
大高よし美

平成二十一年五月二十六日(火)、東京支部総会が日本青年館において開催されました。出席者は二百二名、来賓として母校の古厩校長先生、小口同窓会長、今井副会長、山岡副会長、恩師の平島先生、近田先生にお越しいただきました。

笠原副支部長の開会挨拶のあと、平林順子さん(十八回生)の伴奏で校歌斉唱、その後物故者の皆様に謹んで黙祷を捧げました。

小嶋支部長より「役員の仕事の効率化に努めて活動してきた中で、たくさんの方との出会いがあった。多くの励ましのメッセージをいただき、歴史と伝統の重みを感じた。同窓会・同期会活動のつながりがさらに維持され、発展していくことを願っている。」と、挨拶がありました。

古厩校長先生からは「記念誌を読んで、二葉生が凜とした姿で青春時代を謳歌されたことが分かった。現在は男女共学になったが、この百年を超える伝統と歴史を教育の中に生かしていきたい。」と、ご挨拶をいただきました。

小口同窓会長からは本部定期総会の様子、及び同窓会事業として母校に支援金を差上げた旨のご報告がされました。また同窓会本

会維持費の使い方についてもご説明がありました。

引き続き議事に入り、議長として覚本秀子さん(十九回生)が選出され、二十年度事業報告・決算報告・監査報告、二十一年度役員改正・事業計画・予算・内規一部改正などが承認されました。

第二部は河合優子・公純さん親子をお迎えし、『家族と音楽』と題して講演とコンサートが行われました。素晴らしい演奏と、優しさで温かさに溢れたお話に魅了され、至福の時間を過ごすことができました。

第三部は茶話会に入り、高女三十八回生十一名の八十歳をお祝いし、花束の贈呈をしました。代表して清水保子様よりご挨拶をいただきました。

来賓の近田先生、平島先生からもご挨拶をいただきました。特に平島先生には記念誌の『写真で見る二葉百年』編集に携わった時のご苦労や裏話などを詳細にお話いただきました。また多数の貴重な資料もお持ちいただき、皆で懐かしく拝見しました。

最後に大先輩の中村たまえ様(高女二十七回生)よりお話をいただき、「年を重ねることは自分らしい品位を保っていくこと」という凜としたお姿に、ぜひ見習っていききたいと思います。

最後に『白き翼』と『今日の日はさようなら』を歌って閉会となりました。総会がスムーズに進行できましたこと、役員一同心より感謝申し上げます。

平成20年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

1. 本会計

〈収入の部〉

(単位：円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	2,804,079	2,804,079	
2 維持費	1,650,000	1,443,000	
3 寄付金等	0	140,000	金子詔一様12万円・稲岡武、育子様2万円
4 雑収入	1,600	10,420	貯金利息
収入合計	4,455,679	4,397,499	

〈支出の部〉

(単位：円)

項目	予算	支出	備考
1 総会 講師謝礼・お車代 会場費用・諸経費	120,000 100,000	120,000 91,460	総会資料印刷費・会場機器代等
2 支部便り作成費	170,000	141,368	東京支部便り「二葉」第13号
3 弔慰金	10,000	4,640	弔文レタックス
4 役員通信費・交通費	153,000	155,960	役員通信費：50,000円 交通費：102,960円
5 役員会費用	150,000	129,440	役員会10回
6 幹事会費用	250,000	235,225	幹事会2回分
7 送料・通信費	380,000	347,110	総会案内資料・宅配便・メール便・はがき代等
8 印刷・コピー代	150,000	126,812	封筒印刷・用紙・コピー・インク・フラッシュメモリ代等
9 事務用品	15,000	16,129	記録用ICレコーダー・宛先用ラベル代等
10 渉外 二葉関係 連合同総会	30,000 80,000	11,540 71,940	本部総会交通費 東京同窓連・南信同窓連
11 雑費・予備費	12,000	31,635	振込用紙印字代・名簿整理御札(28,090円)他
支出小計	1,620,000	1,483,259	
12 東京支部同窓会基金積立金	50,000	50,000	
13 次年度繰越金	2,785,679	2,864,240	
支出合計	4,455,679	4,397,499	

2. 東京支部同窓会基金

(単位：円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,648,000	2,648,000	
2 20年度積立金	50,000	50,000	
合計	2,698,000	2,698,000	次年度繰越金

※総会会計報告

(単位：円)

収入		
・会費 (5,000×199人)		995,000
・本部より会場費		10,000
・本部より御祝儀		5,000
・本会計より		211,460
合計		1,221,460
支出		
・シダックスレストランマネジメント会食代	1,000,555	
・講師謝礼	120,000	
・諸経費	100,905	
合計		1,221,460

上記の通りご報告いたします。

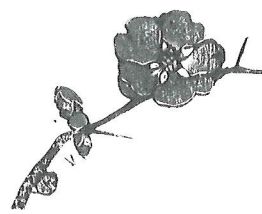
平成21年3月31日

会計係 小松 喜久子 ㊞
杉本 澄江 ㊞

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成21年4月8日

会計監査 西村 直子 ㊞
五味 順子 ㊞



高女38回生へ花束贈呈

平成21年総会
講演とコンサート

「家族と音楽」 親子で楽しむヴァイオリンとピアノ

講師 川合優子氏
川合公純氏

本日は、長男、次男のヴァイオリンと私のピアノ演奏によるファミリーコンサートを行ったかったのですが、次男がヨーロッパに赴任してしまつたので、三人そろつての演奏とならず残念です。おなじみの曲を選んで演奏します。

思い出の中のピアノ

ピアノは六歳から、二葉の元音楽教師野村とも先生に習いました。九十歳になつても凜として音楽に情熱を持つてゐる先生のお姿は、私の人生のお手本となつています。母は元教師でしたが、私が生まれてすぐに病床に就き、そばに行つてはいけないと言われていたので、隣の部屋から、母のため毎日何度も歌を歌いました。父はクラシックから民謡まで音楽が大好きでした。両親が音楽に理解があつ



たことが、私の人生の音楽の基本になつたのだと思つています。

二人の姉が学校に行つた後、母の手助けをするため幼稚園には行かせてもらえませんでした。母のいとこで、二葉の国語の教師をしていた篠原一雄先生が不憫に思つたのか、ピアノを習わせるように勧めてくれ、野村先生のとこに連れて行つてくれたのがピアノを習うきっかけでした。

当時、楽器がなくて、バイエル教則本についている紙けん盤で階名を歌いながら、母の近くで何回も練習しました。足踏みオルガンを買つてもらつた時は、姉と抱き合つて喜んだのを覚えています。ピアノを買つてもらつたのは、父の仕事で王滝村にいたころでした。村には学校に一台あるだけで、ピアノが森林鉄道で着いた時は村の人が大勢見に来ました。

こんな山奥の村から諏訪の野村先生のところへレッスンに通いました。それからもピアノを習い続けてすぐ上の姉と二人音楽の道に進みました。



ファミリーコンサート

八歳違いの兄弟は二人共、三歳からヴァイオリンを習い始めました。私が仕事を持つていたので乳児期から子どもを個人の方や保育園に預けていました。夕方遅くに帰宅してからのヴァイオリンのお稽古は辛いものがありました。一日に一回、親子でひとつの目的に向かい合う時間が持てたのは、今になると幸せなことだと思ふのですが、当時は双方とも必死で夢中でした。練習室の壁に一日一言集が掛けてあり、別の言葉に換えておいても長男が必ず、「親の笑顔は子の笑顔」に戻してありました。次男には別の楽器をともしました。乳児の頃から兄のレッスンについて行つて、自然にヴァイオリンを習うことになりました。

家でも人前での演奏の機会をと思ひ、主人の海外からのお客様には、手料理の後、それぞれのソロ

とアンサンブルをお聞かせするのが、おもてなしのコースとなつていました。

演奏は三人ですが、音楽会のプログラム等事務的なことは主人が全て受け持つてくれ、ファミリーコンサートをいつまでも無料で聞かせていただけるよう経費も担当してくれています。

川合公純さんから一言

春休みや夏休みは茅野の母の実家で過ごしました。霧ヶ峰に行つた時に二葉に立ち寄る機会があり、改築前の校舎を見ることができました。大正時代の木造の趣深い校舎で歴史を感じました。

プログラム

〈ヴァイオリン独奏〉・バンジョーとフィドル(クローラ)・ノクターン第20番(シヨパン)・ロシアソングメドレー(赤いサラファン)



カリシカ等(ピアノ独奏)・楽興の時(シューベルト)・前奏曲「雨だれ」(シヨパン)・幻想曲「さくらさくら」(平井康三郎)〈ヴァイオリン独奏〉・わが母の教えたまいし歌(ドボルザーク/クライスラー)・バスカ奇想曲(サラサーテ)・チャルダッシュ(モンテイ)

最後に全員で『故郷』を合唱しました。

講師プロフィール

川合優子氏(高校17回)
諏訪二葉高校、東京学芸大学D類音楽科卒業、同大学院修士課程修了。現在、東京学芸大学及び目白大学非常勤講師。諏訪交響楽団、信州大学交響楽団と数回ピアノコンチエルト協演。東京文化会館及び東京芸大上野音楽堂にてジョイントリサイタル。小平市にて「二台のヴァイオリンによるファミリーコンサート」(入場料無料)六回開催。

川合公純氏

三歳からヴァイオリンを習う。東京外国語大学ポランド語専攻卒業。在学中、同大学管弦楽団にてコンサートマスターを務める。全日本音楽コンクール等に参加し研鑽をつむ。卒業後、会社勤めをしつつ音楽活動を続ける。二〇〇三年から母優子さん、弟修治さんとファミリーコンサート開始。

活躍する同窓生

輝き続ける

有賀ひろみさん

推薦者

伊藤せき子（高校19回）

二〇〇四年同期会。有賀ひろみ（芸名共）さんとの出逢いは私の人生を豊かにしてくれました。

彼女は、昨年創立六十五周年を迎え、地から湧いた演劇活動を掲げる社会派劇団『文化座』で、大変存在感のある舞台女優です。

初めて私が彼女の舞台を観たのは、五年前『ごせさきてくんない』です。越後最後のごせを扱った作品で、カナダファンが集いで大成功を収めました。

演技も素晴らしかったのですが、驚いたのは昔笠で顔が見えず最後まで三味線のプロ奏者と信じた人が、実はひろみさん本人が弾いていた事!!かなり本格的です。

『天国までの百マイル』では、病気の母役。この作品も中国公演で喝采を浴びたそうです。

中でも昨年初演『てけれつつのば』は明治維新後激動期の物語です。彼女は官吏の妻役、難しい薩摩弁を駆使し、本来敵対すべき官吏の



愛人と協力し、薙刀を振り回し笑いと逞しさを時代を乗り切る感動の舞台でした。やはり!文化庁より『芸術祭大賞』を受けました。私的には主役を喰う存在感溢れるひろみさんあってこその大賞だったと思います。

演劇人になつたきっかけは、劇団たんぽぽ公演が毎年小学校であり、感激!!役者に憧れたそうです。短大卒業後一旦長野県に就職したものの、夢捨てきれず再上京し、二十一歳で文化座試験合格!!今日迄の長きに涉り活躍されています。

入団当時の座長で三年前に亡くなられた鈴木光枝氏に大変厳しい稽古を受けたそうですが、今でも一番尊敬しているとお話です。

私は歌舞伎はじめ多くの舞台を観ていますが、彼女の凄い所は自分を殺してその役になり切るという事です。とかく同じ役者が演じると、違う物語なのにどうしても

そのキャラが立ってしまうのですが、作品ごとにまるで違う役者が演じているみたいです。

皆さん是非!文化座舞台に足を運んで頂き、ひろみさんの真剣勝負!挑戦し続ける姿から、元氣と勇気を戴いて下さい。

感動は心の肥やしとなり、私達の人生に灯を点けてくれますよ!!

がんの子供の

QOL向上を

小松喜久子さん

推薦者

杉本澄江（高校21回）

小児がんは医学の進歩によって治療率は上がってきましたが、治療には長い入院生活が避けられず、その結果、家族の生活、学校の問題、進学、就職等様々な困難があります。このような小児がんの子供のクオリティオブライフ（QOL=生活の質）の向上や家族を支援しているのが、約四十年前にがんの子供を持つ親たちによって作られた『がんの子供を守る会』です。

富士見町出身の21回生の小松さんは一九九一年、息子さんが小児がんになり、大病院で約一年半の入院治療生活を送りました。何でわが子が?と、うちひしがれる小松さんの力になったのは、がんの子供を守る会や、小児がんと闘っている子供を持つ親御さん達でした。元気をもらい、明るく前向

きに息子さんとも向き合っただけで退院できませんでした。

退院後も定期的な通院や学校のことなど様々な問題を抱えながらも、入院中の子供達に、楽しい時間を作ってあげたい、学習の支援をしたい、また、親同士が悩みを打ち明ける場をつくりたいとの強い思いから、守る会の支援を受けて、仲間を募り、病院へ交渉し、『血液、腫瘍疾患の子供を持つ親の会』を一九九三年秋に立ちあげ、代表となりました。

子供達には読み聞かせの会、親同士の情報交換の場として、会報の発行、月例会、院内外から講師を招いての講演会を行いました。入院中や通院中の子供やそのきょうだいを対象の、クリスマス会やキャンプ。治療中の子供が参加するので、医師、看護師、ボランティアの皆さんの力なしでは、実現できませんでした。

余命わずか、歩くことも困難になってしまった子供の参加がありました。その子が帰りに「楽しかったよ、来年も絶対に来るからね。」とキラキラと輝く瞳と笑顔を残していきました。「それは、十年続いている中で一番思い出深いキャンプでした。」と小松さんは語りました。

さらに、小松さんは、院内学級開設の一步として、学習ボランティアを入れました。今では院内に教室もでき、訪問指導はベッドサイドではなく、教室でできるようにになりました。



小松さんは、三年前に親の会の代表を後進に譲り、がんの子供を守る会のボランティアを続けています。この会が行っているクラウドクター事業（全国の小児がんや難病の子供達が入院している病院へ「ちいさなちいさなゆめはこび」で、アンパンマンショー、人形劇、ガチャピン・ムックショーなどを届ける）のお手伝いの為に全国を回っています。

頑張る子供達から元気をもらいながら、これからも、闘病中の子供達や、小児がん経験者のQOL向上のために活動をしていきたいと話しています。

このような活動を行っている方々は増えてきましたが、親の会を立ち上げ、ボランティア活動を長年継続している小松さんを、私達も応援していきたいと思えます。

懐かしい二葉の思い出

菊川 翠 (高校1回)

昭和18年春、おかつは髪の人たちは憧れの諏訪高等女学校に入學しましたが、時代は戦時下で、二年生からは農業の勤勞奉仕、軍需工場への動員と、ほとんど勉強と関係ない年月を過ごしました。

終戦もない昭和22年に高女39回の卒業(当時女学校は四年制)、23年高女最後の40回卒業(學制改革により五年制)、24年新制高校第1回の卒業、

同期会だより

と私たちの学年は都合3回に分かれて卒業いたしました。入學もない頃と終戦後に机に向かっただけの中抜けの女学生たちでしたが優秀な方の多いことをひそかに誇りに思います。

戦時中の思い出の一つとしては、先輩たちと一緒に磨いたピカピカの体育館の床が剥がれて大型工作機の旋盤が設置されたことでした。戦争とは無残なものです。戦後その旋盤が取り除かれて復元された体育館の床には、剥がされる以前に引かれていたバスケットやドッジボール用の白線が復元されずに散らばっていました。



すこやか11

竹内美穂 (高校11回)

二葉高校を卒業して早や半世紀。原稿依頼の機会の折に母校のことを振り返るのも楽しいことだ。同窓会東京支部の我が学年は百名近くいるのに関心を持って参加するのはその一割。まして本部の総会には役員と数名だけ。総会の折りの歴代の演者を拜見しても立派な方ばかりで今まで出席していなかったことが悔やまれるほどだ。学年会は昭和三十四年十一回卒業なので『すこやか11』と名付けて二年に一回昼食会を開いている。時間があればその付近の公園を散策。あまりにも時間の隔たりがあるの



でお互いとおつきにくい点もあるが、青春時代の三年間二葉で学んだ方々はだてに年を取っていないように思う。その後の人生模様をお聞きすることは楽しく感心することが多い。役員をしたり、常連の人と顔なじみになってくるとお会いして状況を伺うのが楽しみななる。この先も伝統に培われた人生前向きな二葉OGとして誇りを

久しぶりの同期会

佐藤悦子 (高校27回)

十一月月上旬、新型インフルエンザに脅える風潮のなか暖かな日差しに背を押されお台場のホテル日航東京中国料理『唐宮』にて、同期会を開催しました。久しぶりの同期会でしたが、それぞれ家族の介護、結婚、仕事又、病氣や諸事情により会員八十名の内十七名の参加と少し寂しい会となりました。

ですがホテルはとても美しい景観と調度で、台場という場所柄日常から少し離れた感覚に「来て良かった、皆さんにも楽しんでいただけそう」と、ほっとしていました。会では再会を祝す乾杯に始まり美味しい料理を頂きながら自己紹介と近況報告を順に行ない、懐かしい先生方(赤羽、米山、前島、宮沢征矢、山田校長他多数)のお名



前や近況にどっと笑顔と質問が飛び交い現在の母校の様子にも話題が及び楽しい一時となりました。最後に白き翼を合唱して、乙女に戻ったところでまたの再会を願ってお開きとなりました。



しかし、楽しいこともありました。体操部のダンスの全国優勝、バスケットボールの優勝など、石だらけの校庭で催された盛大な運動会のことなどをたいへん懐かしく思い出しております。

私たちの同期会『白樺会』はお陰さまで昭和39年から連続して今年46回になります。

校門や運動場周囲の桜、走り幅

跳びや走り高跳びをした砂場などの遠い日の情景が懐かしく脳裏を巡る今日この頃です。



歴史を感じる混声合唱 青春の時代のハーモニー

終戦直後混乱の中で少しでも明るく夢を持ちたいと生徒達が校長に直訴して昭和22年に作られた『諏中諏女混声合唱団』は諏訪中(現諏訪清陵)と諏訪高女(現諏訪二葉)の合同でした。その後幾多の困難を乗り越え、昭和28年には全日本学生音楽コンクール東日本大会に出場し、成果を収めました。諸事情で解散しました。

平成9年に初めて同窓会を開き、現在では七回目を迎えました。平成21年には諏訪のセイコーエプソン厚生年金基金会館ゆむで開き、五十六人が集まりました。再開以後二年に一回、

当時の歌声を披露しています。歌声が会場に響き渡ります。「青春を感じ歌う喜びを再び実感している」と参加者の楽しそうな感想でした。

混声合唱団員全員七十歳以上になりましたが、素晴らしい歌声は変わらず若さを保って活動を続けています。



写真資料;長野日報提供

平成20年度東京支部活動内容

役員 支部長 小嶋千津子
副支部長 笠原富美子 中坪 清子 大高よし美
会計 小松喜久子 杉本 澄江
記録 市村 俊美 福田 益子 橋本はるみ
監査 西村 直子 五味 順子

年月日	事項	備考
6/7	第1回役員会	年間事業計画 役員役割分担
6/29	第2回役員会	第1回幹事会準備 本部理事会・同窓連関連について 次期定期総会講演講師について等
7/27	第3回役員会	幹事会資料準備
9/6	第4回役員会	幹事会資料印刷・打ち合わせ
9/9	第1回幹事会	19年度定期総会会計報告、アンケート結果報告 19年度事業の進行状況、会報発行計画について 維持費納入者拡大について、同期会活動報告 今後の予定と確認
11/16 (H21)	第5回役員会	
1/16	歴代正副支部長会	現況報告と懇談会(出席者29名/於アルデア)
2/8	第6回役員会	中間会計及び監査報告、 第2回幹事会準備 次期定期総会について 『母校卒業生の東京支部入会のお誘い』について
2/21	第7回役員会	幹事会資料準備、印刷
3/3	第2回幹事会	中間会計及び会計監査 会則改定について 東京支部だより第12号の披露 総会関連事項検討、次期役員(案)について
3/14	第8回役員会	総会関連事項確認、冊子原稿検討
4/19	第9回役員会(拡大)	役員・次期役員候補者による総会準備、役員引継ぎ、 会計監査
5/24	第10回役員会(拡大)	役員・次期役員候補者による総会前々日準備
5/26	平成21年総会	出席者 205名(会員198名来賓7名)

・会報 東京支部だより「二葉」13号発行
・本部理事会出席5回、本部定期総会出席
・南信同窓連出席4回、東京同窓連出席3回、南信同窓連親睦旅行参加
・正副支部長4人会

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます
(平成22年2月4日現在)

34	大久保美智子様(真道)	H 19・12	高女25	丸山 静 子様(小口)	H 19・11	高女34	伊藤 みつ江様(伊藤)	H 21・8
32	小室 清 野様(小室)	H 20・4	25	谷津 ゆき様(平林)	H 21・5	36	河西 八 重様(小口)	H 21・10
31	今井 さと子様(小林)	H 21・5	27	黒沢 妙 子様(松沢)	H 20・11	37	小川 さち子様(植松)	H 20・5
31	丹羽 富貴子様(上沢)	H 20・9	27	藤森 政 子様(岩波)	H 21・4	38	園部 禮 子様(千野)	H 21・5
30	城田 久 恵様(中島)	H 19・	29	増沢 み ほ様(山岡)	H 19・6	高女2	高橋 悦 子様(中川)	H 20・2
29	増沢 み ほ様(山岡)	H 19・6	27	藤森 政 子様(岩波)	H 21・4	3	五味 すみ子様(五味)	H 19・0
27	藤森 政 子様(岩波)	H 21・4	25	谷津 ゆき様(平林)	H 21・5	3	詫摩 昭 子様(葛蒲沢)	H 20・1
27	黒沢 妙 子様(松沢)	H 20・11	27	黒沢 妙 子様(松沢)	H 20・11	3	須藤 道 子様(須藤)	H 21・11
27	藤森 政 子様(岩波)	H 21・4	27	藤森 政 子様(岩波)	H 21・4	4	笠原 富 子様(金子)	H 20・5
29	増沢 み ほ様(山岡)	H 19・6	27	黒沢 妙 子様(松沢)	H 20・11	5	中村 正 子様(関)	H 21・3
30	城田 久 恵様(中島)	H 19・	29	増沢 み ほ様(山岡)	H 19・6	8	岡本 美 鈴様(露沢)	H 21・10
31	丹羽 富貴子様(上沢)	H 20・9	30	城田 久 恵様(中島)	H 19・	11	矢島 千 春様(五味)	H 21・7
31	今井 さと子様(小林)	H 21・5	31	丹羽 富貴子様(上沢)	H 20・9	12	平井 るり子様(尾沢)	H 20・8
32	小室 清 野様(小室)	H 20・4	31	今井 さと子様(小林)	H 21・5	15	小池 孝 子様(前島)	H 21・12
34	大久保美智子様(真道)	H 19・12	32	小室 清 野様(小室)	H 20・4	18	鴻上 美津枝様(入村)	H 21・12
						23	大木 てつ子様(大井田)	H 18・2

事務局だより

☆東京支部便り「二葉」と総会案内は基本的に維持費を五年間に一度でも払ってある方へ送っております。払っていないのに届かない方がいらしたら役員又は幹事までご連絡をお願い致します。

☆総会案内の発送を業者に委託しております。幹事の方は同期の皆さんへの案内を同封出来ませんのでご承知下さい。☆役員の仕事をごなたにも引き受けていただけるよう改善に努力をしております。

☆現在の役員選出制度が維持できなくなっております。選出についても良い考えがありましたらお寄せ下さい。若し皆さんからもお知恵をお貸し下さい。

編集後記

☆東京支部は年千円の維持費で活動しております。幹事の仕事は免除になりました。同生の方も同額で協力をお願いします。

☆本部定期総会への申し込みは東京支部が一括で行います。ご出席の方は支部長までご連絡下さい。

皆さんのご協力で編集をいたしました。

この会報が皆さんの役に立つことを期待しております。



誌面版画: 加藤道子(高校19回)